

# 高齢者における薬物治療

帝京大学医学部附属溝口病院第四内科学講座 原 眞純

## KEY WORDS

- ポリファーマシー
- フレイル
- 低血糖
- 過降圧
- EWTOPIA 75

Drug therapy for the elderly.  
Masumi Hara (主任教授)

## I. はじめに： 高齢者動脈硬化予防と 薬物治療

動脈硬化は多くの危険因子により複合的に進行するため、これらの危険因子に対し、食事・運動療法や禁煙などの生活習慣指導、および薬物治療で是正することが予防のための対策となる。高齢者は脳心血管疾患を発症しやすく、絶対リスクは高いものの、最も強力かつ介入が不可能な加齢という危険因子が存在することから、他の危険因子に介入することによって得られる発症リスクの低下は若年者と比べて小さくなる。

効果が現れるまでの時間も留意し、治療の優先順位を考えるべきである。血糖コントロールの改善は確かに心血管疾患の発症を抑制するが、効果が明らかになるまでには10年以上の期間を要するかもしれない<sup>1)</sup>、速やかな効果を期待する場合は脂質や血圧への介入を

優先すべきであろう<sup>2)3)</sup>。

さらに、動脈硬化性疾患の発症抑制を示したこれまでの大規模介入研究のほとんどが、非高齢者を対象としたものであることに留意すべきである。わずかな例外を除いては、ほとんどの大規模臨床研究では75歳以上の後期高齢者が対象から除外されている。したがって、結果をそのまま高齢者に当てはめることができるとは限らない。

高齢者に薬物治療を行う場合には、こうしたことを念頭に置きながら、より危険が少なく、健康寿命の延長に寄与できる治療を選択することが必要となる。

## II. 薬物治療開始に あたっての注意点

高齢者に対する薬物治療は、若年者以上にリスクとベネフィットの双方を考慮に入れたうえで決定することが望ましい。高齢者では、一般に動脈硬化